

全大教役員と学生・院生団体の意見交換会実施

2020年
5月30日

新型コロナウイルスの下での学生支援と学びの保障をめぐる

全大教新聞

2020年7月10日

第373号

【発行所】
全国大学高専教職員組合
(略称・全大教)



【PDF版 (全面カラー)】
http://zendaikyo.or.jp/?page_id=107

【電話】03-6802-4250

【HP】<http://zendaikyo.or.jp/>

【所在地】〒110-0012
東京都台東区竜泉
2-20-15 都築ビル2階

* 組合員の購読料は
組合費に含まれて
います (一部30円)

今月の紙面

- 2 特集 組合や協議会の取り組み成果等「山形大」「大阪府立大」「徳島大」「高専協議会」
- 3 論壇「9月入学移行論が意味するもの」
愛知工業大学教授 中嶋哲彦
- 3 職場のQ&A ②⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大で起きている労働問題とその法的対応
「テレワーク編」

- 4 単組からのレポート
・秋田大学「コロナ禍においても活動の道標」私たちの秋田大学憲章制定から17年」
- ・岡山大学「学校の教育研究活動と組合活動は両輪である」
- 4 わたしもひとこと

5月30日に、全大教中執の役員と学生・院生団体の意見交換会をWeb会議で実施しました。新型コロナウイルスの感染拡大によって、経済的な問題から修学の継続が困難になる学生も生じつつあります。また、開講が遅れ、試行錯誤の中で遠隔授業による対応が行われています。こうした状況の下で、大学の現場で実際に学びをつくる学生と教職員が、どのように大学の学びを保障してゆくのかわかるとともに考える機会をもつために、全大教が呼びかけて開催したものです。

参加した団体は、全国大学院生協議会(全院協)、高等教育無償化プロジェクト(FREE)、授業料値上げの中止を求める国立大学の会(国立大学の会)と全大教です。全大教からは、発言者として鳥畑委員長、笹倉副委員長、岡田教文部長、進行役として長山副委員長が参加し、このほかに全大教中央執行委員が傍聴参加しました。

学生の声から生活面、勉強面で大きな不安・不満が

【コロナ危機の学生生活】
大学院生の研究生活の環境はもともと劣悪で、生活と研究継続のために73%の院生がアルバイトをしている。修学支援新制度の対象外で、奨学金の借入額も300万円以上が多数(全院協)

■調査によると学部学生の7割がコロナによって収入が減少。約2割が退学を検討

委員長、岡田教文部長、進行役として長山副委員長が参加し、このほかに全大教中央執行委員が傍聴参加しました。

討せざるを得ない(FREE)

■修学支援新制度の大学における周知が不十分で、活用できることが学生の間で理解される状況が作られていない(国立大学の会・一橋大)

■アルバイト収入・家計収入に影響が出そうとする学生(3割)のなかで、授業料減免が受けられない人が6~7割いる(国立大学の

会・千葉大)

■課外活動によって一定の収入を得ていた(音楽演奏など)が絶たれている(国立大学の会)

■新生として上京しても人と会わず不安(FREE)

【学びについての不安や不満】

■大学院生の研究がコロナ危機で進まず、論文執筆、提出、発表が困難になり、将来のキャリア形成に大きな不安がある(全院協)

■オンライン授業へのWiFi環境が整備せず支援もなし(FREE)

■図書館が使用できない。実技、実習、フィールドワークの授業ができないなど、十分な学習ができていない。卒業、資格試験準備、留学ができない(FREE、国立大学の会)

■就職活動、インターンができず不安(FREE)

■大学教員が多忙で相談に対応してもらいづらい、大学の相談の窓口がよくわからない(全院協、FREE)

【政府や大学に求めている主なこと】

■月額最低10万円給付(全院協)

補償(FREE)

■国費による一律学費半額(全院協、FREE)

■休学に関する特別措置、今年度の奨学金の返済猶予・利子手当(全院協)

■学生のメンタル、健康窓口。その経費を政府として補償すること(FREE)

■大学改革の停止・見直し(全院協)

■コロナによって留学ができなくなっている中で、「全員留学」を理由に強行した

千葉大学の授業料値上げの中止と減額(国立大学の会・千葉大)

■コロナ後の大学、学生生活

意見交換から修学支援のハードル高い、オンライン授業充実の為に

それぞれの団体からの報告のなか、意見交換を行いました。

その中で話題となったのは次のようなことでした。修学支援新制度や緊急支援

活のあり方の検討にあたっては、学生の参加を求める(FREE)

への経済要件のハードルが高く申請前に断念している学生がいること。大学の業務負担軽減の面からも、細かい要件を課さない一律の学費免除による学生への支

援が適切という意見。オンライン授業では教員側にも忸怩たるものがあると想像するが、そのことを表明してもらえれば充実への共同の発信がしやすくなる、など。

参加した全大教役員からは、学生・院生の真摯な態度と、アンケートの結果に基づく発信で社会的に影響を与えている取り組みに感服する感想が聞かれました。(副委員長 長山泰秀)

全大教では、現在の新型コロナウイルス対応下や本格的な教育研究活動の再開にあたっての労働・教育研究環境の維持・改善を目的としてアンケートを行っています。

教職員の皆さんは、未経験の状況で前例のない対応が求められる中、日々の業務にあたっては、日々の業務に専念していただいています。

この間、政府からも様々な

な対策が出されていますが、教育研究を支えるのは一人ひとりの教職員です。皆さんの現在の業務の状況と今後の課題について、率直なご意見を聞かせください。

アンケート結果は文科省等への要請や単組での団体交渉等に活用します。皆さんのご協力をお願いします。

※本アンケートは全大教加盟組合の組合員以外の方もご回答頂けます。

※附属病院教職員の方は本アンケートの対象ではありません。別途、取り組みを検討します。(書記長 永井信)

アンケート実施中!

回答ページ(5分くらいです)

7月末まで

https://zendaikyo.or.jp/?page_id=2198



新型コロナウイルス感染症への対応下での労働実態・教育研究状況

